
仮面ライダーオーズ 模索に支援

桂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーオーズ 模索に支援

【Nコード】

N4061U

【作者名】

桂

【あらすじ】

アंकを失いながらも戦う火野映司。
模索するオーズの力。
火野を支援していく後藤。
短いです。

(前書き)

短いですが・・・

プトティラコンボを使わず、オーズの力を最大限に引き出せる最適のコンボとは何か、映司は1人模索していた。

紫のコアメダルを多用すれば暴走の危険が増すばかりか、意志を乗っ取られかねないリスクを伴っている。現に最近ではプトティラコンボへの変身後に出る後遺症は、段々と酷くなって来ている事に気付いていた。映司は焦る心を抑え色々なコンボを試していく。

「はっ……」

「おい火野、大丈夫か？」

「あっ……すみません、大丈夫です」

変身を解いて直ぐ、紫の意志が映司を一瞬支配する。

戦いの中メダルを交換しながら調整を繰り返していく。色々データも溜まっていくが、体に掛かってくる負担は大きい。その為か紫のメダルを押さえ込む力が弱まるらしく、直ぐに取って代わられる事が多くなって来ていた。

「火野、お前はなるべく変身を控えた方がいいんじゃないのか？」

心配からか後藤は自分のサポートに回れ、力の温存を図った戦い方をしたらどうかと1つの案を出した。

一瞬驚いた顔を見せる映司。

「ありがとうございます。でも・・・大丈夫です」

自身の胸の辺りを握り締め、まだ行けますと頷き笑う。

「しかし火野」

伊達さんがいない今、俺だけではお前を止める事は無理だ。暴走を危惧していたが

「あと少しで・・・何か掴めそうなんです」

映司はたった1枚残されたアングのコアメダルをギュツと握りしめた。

(後書き)

紫の出番なかったな

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4061u/>

仮面ライダーオース 模索に支援

2011年10月8日19時22分発行